

キーパー技術コンテスト
2015年 全日本チャンピオンが決定!

上位入賞者 勝利への軌跡



水谷勇介 選手 167.8点【競技得点166.3点+時間順位加点1.5点(56分04秒)】



キーパー選手権でも大活躍の会社



████████は、昔から洗車に力を入れている。洗車はSSの収益の柱と考えており、4年ほど前からキーパーコーティングに着手はじめた。昨年12月のキーパー選手権では鹿児島県ブロックで「優勝」「準優勝」「4位」と3店舗も入賞している。水谷選手は12月に準優勝

を獲得した████████にて主任を務めている。洗車に力を入れた時から、技術向上に会社全体で取り組んでおり、昨年は各店舗2名ずつ参加し、社内でのキーパー技術コンテストを開催した。

洗車・コーティングが柱のお店

████████は鹿児島市のペットタウンにある。比較的高級な住宅街が周辺に複数あり、法人などのお客様は少ない。一般のお客様メインのセルフSSだ。店舗スタッフは5名。全員コーティングの作業ができる、カーケアの柱として洗車・コーティングに取り組んでいる。昨年末は100台を超えるクリスタルキーパーと10台程度のダイヤモンドキーパーを施工した。平月もカーケアの8割は洗車で、車をキレイにすることに力を入れている。リピートのDM活動などもしっかりと行っている。



ゲストルーム一面に貼られたフォトログ用の写真は圧巻!お客様の信頼を獲得している

昨年の悔しさが、技術の大切さに

水谷選手は、在籍5年目、キーパーに取り組みはじめて3年。性格は負けず嫌いで几帳面と自分を分析する。昨年のキーパー技術コンテストでは予選こそ通過したが、南九州チャンピオン決定戦では入賞すらできなかった。昨年参加するまでは、技術に対してそれほど意識も意欲もなかった。会社から「行け」と言わされたから出場した感じだったと振り返る。しかし自分が入賞すらできなかつたことが悔しく、お客様に自信を持ってコーティングを提供するために、そして周辺にたくさんのキーパープロショップがある中で「このままではいけない」と技術の大切を実感した。

現場での教育は厳しく

店舗ではスタッフに厳しい。特に仕上がりには「何でこんなの(拭き残し)が見えないの?」「何分やっているの?」など、現場での指摘や教育は厳しく行う。口が悪いと自分でも感じることもある。作業面ではスポンジの動かし方をチェックする。ポンネットやドア部分の平面のパネルは、誰がやってもある程度スムーズにできるが、フェンダーやバンパーなど形が複雑なのでできない。様々な形がある車でこそ、しっかりと無駄がないようにスポンジを動かすことが大事だ。自分でも行うし、スタッフにも伝えている。

今回の大会に向けては、ほとんど練習はしていないという。お客様の車を1台ずつ、真剣



にキレイにすることだけをやってきた。でも「100点ビデオ」と「昨年のチャンピオンビデオ」を見た回数は誰にも負けない。優勝した後の北本選手のインタビューまですべて覚えていたほどだ。

早くもチャンピオン効果で インターネットからの来店あり

決勝進出の11名に入れた時、それ以上を強く望まなかったことで逆にリラックスして臨めた。仕上げ確認に集中したのではなく、レジンの拭上げの段階でしっかり仕上げることを意識した。競技が終わった時、「最高の品質ができた」という確信もあったという。トヨタアクアの1台施工だったのも良かった。お客様に提供する普段の形だったからだ。売上がすべての世界で、実績を出すためには技術があってこそ。ゆえに販売やりピートにつなげるために真剣に考え、行動している。「『あそこのお店はいいよ』と口コミが得られるよう、技術をこれからも作っていきたい」と水谷選手。取材時はコンテストから1週間後。すでにインターネットから全日本チャンピオンをたどってお客様が来店している。今後の活躍が楽しみだ。